

## 園長だより「社会性を身につける」 第17号

個人差はありますが、保育園に通うこの時期のお子さんは成長するにつれて少しずつ自分の周りにお友だちのことに興味を持つようになります。自分のことしか見えなかった・考えなかったけれど、周りを見る視野（視覚的なものだけではありません）が広がってくるということです。

今まであまり見えていなかった周りのお友だちが見えてくると、子ども達は様々な形で関わりを持とうとします。手をつないだり、一緒にブロックで遊んだり、声をかけたりするような直接的な関わり合いが増えてきます。これは人としての社会性の芽生えと言ってもいいのかもしれません。

子ども達が保育園・幼稚園や小学校で学ぶ大切なことの一つは「社会性を身につける」ということです。周りのお友だちと関わり合いが増える、あるいはそんな機会を増やしてあげるということは子ども達が成長していく上で必要不可欠なことです。

ただ、関わり合いが増えるということはお友だちとのトラブルも増えるということでもあります。自分の思ったようにならない時、お友だちの使っているおもちゃで遊びたい時、子ども達は泣いたり、怒ったりして自分の思いを表現します。自己表現のスキルがまだまだ未熟なので仕方がないことです。場合によっては、お友だちをたたいたり、噛んだり、手にしているものを投げたりします。

当然、保育教諭はお子さんの気持ちに寄り添いながら、自分の思い通りにいかなくても、お友だちをたたいたり、噛んだり、ものを投げたりすることは絶対に良くないということ指導することになります。もちろん子どものことですから、明日からすぐにその場に応じた適切な自己表現ができるということはありません。それを踏まえて、保育教諭は何度も何度も粘り強く丁寧に指導していくのです。

お子さんはこのようなお友だちとの関わり合いの中のトラブルを経験し、保育教諭に指導されたり、自分なりに納得したり、時には我慢したりしながら、生きていくための社会性を少しずつ身につけていくのです。ですから、このような関わり合いが増えることによって生じるトラブルはお子さんが「生きる力」を獲得していく上で極めて重要だということですね。

当たり前のことですが分別のある子どもはいません。全てのお子さんはそれぞれ多い少ないはあるにしろ、成長していく上でお友だちとのトラブルは避けて通ることはできないものなのです。そのようなトラブルもお子さんを成長させるための一つのステップと考えることも大切だと思います。

保護者の皆さんと私たちがそのことを共通理解し、力を合わせて大切なお子さんを育てていければと考えています。今後とも変わらず、城東ちどり保育園の保育・教育にご理解ご協力をお願いいたします。